

インターネット公開許諾のない文章には  
墨消し処理を施しています。

—巻頭グラビア解説—

修那羅の石像／姉妹像

長野県上田市の西方約二〇キロ、小県郡青木村と東筑摩郡坂井村の境に修那羅峠がある。

その山頂に近いところに安宮神社があり、その裏山に仏像、神像、道祖神、文字碑、石祠など八百余体の石像が細い道にそって一列に祠られている。その数の多いこともさることながら、地方の庶民の信仰の実態を示すとともに、独創性のある造形を伝えている点、貴重な遺品とされている。

江戸末ごろこの地に修那羅様（俗名望月幸次郎）とよばれる修験者がおり、いろいろな靈験をしめし土地の人びとの信頼をえると

もに尊崇され、没後、祠られたのが安宮神社であり、その祈願成就の願いをこめて造像されたのがこの石像群である。お金をにぎりしめた金神像、鎌をもつ神、ねずみの害に困った養蚕家が奉納したであろう猫神、仲よく肩を組み手をにぎり合っている道祖神。まことに庶民的で、その主題も豊富、人びとの切実な願いが私達の心に伝わる。そして彫りの技術が幼稚なるが故に一層親しみが深まっている。この姉妹像は、思わず微笑み言葉かけたくなるような心のあたたかさを覚える。造立者の願いは平安・子育て祈願であったのか、それとも姉妹の追善供養であったろうか。

（文学部教授 成田俊治）

